

ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
https://www.chubuh.johas.go.jp/ FAX: 052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

脊椎 手術用ナビゲーションの進歩

副院長（整形外科部長） 伊藤 圭吾

秋麗の候、病診連携の先生方におかれましては平素からご紹介を賜り、厚くお礼申し上げます。コロナも5類へ移行し、ようやく旅行などで移動されることも多くなり、カーナビ、地図情報アプリなどは必須のアイテムとなっているかと思えます。



手術の際にもナビゲーションが存在します。手術時の道先案内人です。令和5年2月に新型の術中撮影CTナビゲーション機器を導入致しましたので、ご紹介させていただきます。

原理は動かない場所（骨など）にアンテナを取り付けた状態でCTを撮影し、アンテナを基準とした使用機器との位置関係が撮像したCT画像上に描出されます。整形外科分野のみならず、耳鼻科、脳外科などの骨を扱う手術の際に力を発揮します。私の専門分野での脊椎外科での使用時は、脊椎の姿勢を矯正したり、転位が進まないようにする際に螺子固定を行います。特に頸椎など脊髄、椎骨動脈などが隣接する細い椎弓根に螺子を挿入する際などには必ず使用します。新型CTナビゲーション器械は高画質化して螺子の太さ長さもCT画面上に投影されるようになり、更に安全に螺子を挿入できるようになりました。

日進月歩の勢いで進化する医療の中で、最新機器の導入で患者様へより良い医療をご提案できたらと思っております。今後とも病診連携先生方のご希望に添えるような努力をしておりますので、御紹介のほどよろしくお願い致します。

腎臓内科・リウマチ科の取り組み

腎臓内科・リウマチ科 副部長 山本 真理

日頃より病診連携にご協力いただきまして誠にありがとうございます。腎臓内科・リウマチ科は、現在スタッフ10名、専攻医3名で活動しています。どの医師も両方の科を兼任して働いています。科の取り組みについてご紹介します。



腎臓内科

健診異常のフォローや腎炎・腎不全診療のほか、シャント手術（人工血管留置術含む）、血液透析・腹膜透析管理を行っております。腎臓移植を希望される方には適切な医療機関をご紹介します。10月には患者さん向けの腎臓病教室を数年ぶりに開催しました。早期からの腎不全予防対策・治療を行うため、CKD連携パスを強化していくよう取り組んでいます。



リウマチ科（膠原病科）

膠原病は多臓器に炎症が起こる全身病です。病気の診断だけでなく、主要な炎症臓器を見極め、患者さん毎にあった治療を提供します。腎臓内科も兼任していることで腎生検を早期に行い早期診断を目指していくことができることは我々の強みと考えております。膠原病疾患の患者さん方も仕事・結婚・出産など日常生活を安心して過ごせるようサポートさせていただくことを目標としています。また、当科は感染症診療にも重きを置いて活動しています。関節炎や抗体陽性症例だけでなく不明熱精査などでもお気軽にご紹介ください。

どちらの科も、患者さんの全身管理を行うためには各臓器の専門科や開業医の先生方との連携が必要不可欠です。今後も近隣の先生方に信頼していただき、お気軽にご紹介をしていただけるような科を目指して精進して参りたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



医師交代

●採用

令和6年7月1日付け

太田 豊裕（放射線科 第二部長）

南 貴之（外科 副部長）

令和6年10月1日付け

佐久間 貴史（脳神経外科 医師）

佐藤 翔一（専攻医）

伊藤 裕紀（眼科 医師）

令和6年6月30日付け

木村 啓佑（脳神経外科 医師）

喜多 佑太（専攻医）

孫 汀（専攻医）

●退職

令和6年6月30日付け

蟹江 恭和（外科 医師）

伊藤 裕哉（整形外科 医師）

牧野 莉央（形成外科 医師）



最近の顎変形症治療

歯科口腔外科 部長 鶴迫 伸一

顎変形症は、成長発育の過程であごの骨格に変形を生じる病態です。原因は不明ですが、思春期に顎が急速に発育するときに、上下の顎の位置、かたち、大きさのバランスが崩れ、受け口、出っ歯、顔のゆがみ、唇が閉じにくい、噛めないといった症状が明らかになります。口腔、顎、顔面に審美的障害をもきたすばかりでなく、咀嚼、発音、呼吸といった重要な機能にも影響を及ぼす可能性があります。



顎変形症の治療には、①歯並びの治療（矯正歯科）と②顎矯正手術（口腔外科など）が必要です。顔貌の改善のみを目的とした美容外科手術は自費診療ですが、①と②が必要な外科的矯正治療は平成7年から保険適応となり、現在全国で年間約3000件の手術が行われています。当科は昨年67件の顎矯正手術を行い、全国で42施設ある顎変形症学会研修施設に認定され、安全で良質な治療を心掛け、医療水準の向上に努めております。顎矯正手術は非常に困難な手術とされてきましたが、低侵襲で安全な手術と入院期間の短縮を目指して以下のような機器の導入、手技の工夫を行っております。

1. 超音波骨切削機器の普及

回転切削器具で危惧される神経、血管、軟組織損傷のリスクを回避し、正確に骨を切削できる。キャビテーション効果により出血が減少。

2. 内視鏡、顕微鏡による鏡視下の手術

従来法では盲目的操作となる顎の後方、下方、深部の手術が鏡視下で安全、正確に行える。

3. コンピューターシュミレーションによる手術計画

CTデータから PC上で手術計画をたて、3Dプリンタで作成した実態模型上で実測し、術中比較しながら手術を行う。

4. チタンプレートとロッキングスクリューによる正確かつ強固な骨片固定

術後の顎間固定が不要で、早期に常食を摂取。術後4日で退院可能。

これからも患者さんにとってよりよい医療を提供できるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

ICTが変える 糖尿病診療のUpdate

糖尿病・内分泌内科 部長 中島 英太郎

2型糖尿病では、食事と運動療法が治療の基本となります。そのため患者さんの日常生活がどうなっているのか知ることは患者さん自身の自己管理と医師の治療方針決定にとっても重要です。しかしながら月1回の受診時にHbA1c値が悪化していた時、患者さんに間食などの食事や運動の状況を伺っても1~2ヶ月前のこ



とを憶えていないのが普通です。そこで当院では、患者さんのスマートフォンにPHR (personal health record) アプリ「シンクヘルス®」を入れていただき日々の診療に活用しています。この無料健康アプリには、血糖、持続血糖測定システム (CGM) データ、血圧、体重、内服歴、インスリン注射時間と量、食事記録、歩数などが自動入力で、あるいは手入力でクラウドに保存されます。受診時にはこのデータを、医師、管理栄養士、看護師含め多職種チームがPC画面で見ながら患者さんの色々な相談に乗ることが可能となります。患者さんの日々の生活が「見える化」され薬剤の調整のみならず、効果的できめ細かい療養指導もできます。また当科では、2018年よりMICIN社オンライン診療アプリcuron®を導入して当院外来の少数の患者さんのみに実施中でこのアプリを併用して質の担保としています。

シンクヘルスは患者さんは無料で使用可能です。糖尿病に限らず健康アプリとしてご開業の先生方にも活用いただけたらと思います。

よろしければ是非ご検討ください。



地域医療連携室からのお知らせ

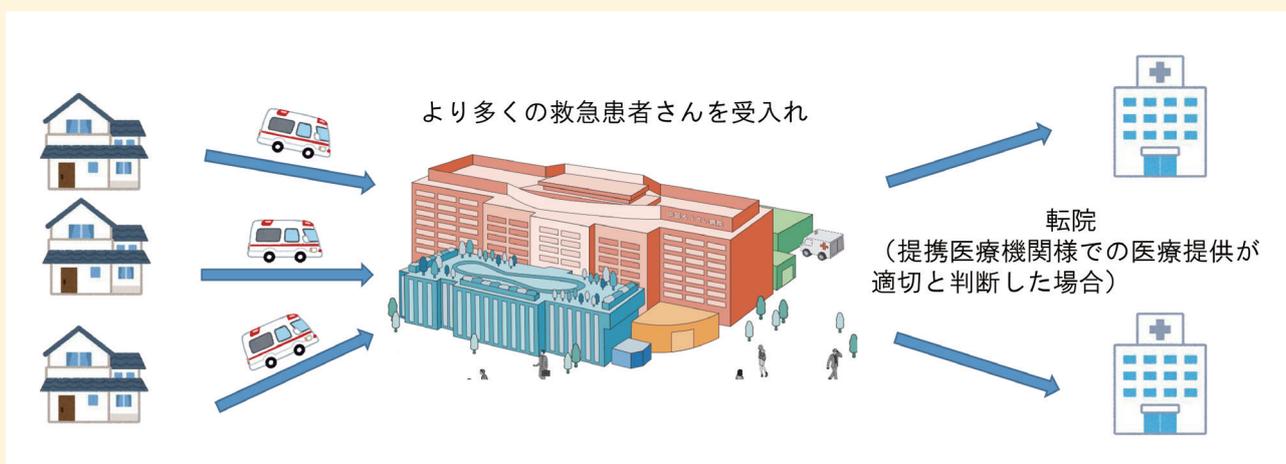
救急患者連携搬送（下り搬送）の取組について

当院は名古屋市南部地域の二次救急医療機関として、積極的に救急患者の受入れを行っております。当院が対応すべき急性期医療を適切に提供するため、必要時に連携医療機関様へ転院搬送を行う「救急患者連携搬送（下り搬送）」の取り組みを推進しております。

地域における適切な医療を提供できるよう、これからも病病連携の強化に努めてまいります。

【搬送方法】

当院へ救急搬送された患者さんについて、予め業務協定を結んだ医療機関様での医療提供が適切と判断した場合、当院スタッフが同乗の上、救急車両等で転院搬送させていただきます。



メディカルサポートセンター

(平日 8:15~19:30)

(TEL) 052-652-5950

(FAX) 052-652-5716

センター長：篠田 典宏（院長補佐）

副センター長：鈴木 陽子（看護副部長）

副センター長：庄山 武（医事・連携課長）

連携係長：今関 信夫（連携係長）

事務担当：今枝 智子

広報委員長：循環器内科 篠田 典宏

編集担当：整形外科部長 神原 俊輔

感染管理認定看護師 近藤 年忠

医事課員 今枝 智子

